2023年2月5日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

血の通った信仰

［ルカによる福音書19章41～48節］

エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。やがて時が来て、敵が周りに堡塁を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。」それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出し始めて、彼らに言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』
ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、どうすることもできなかった。民衆が皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていたからである。

［1］　イエスの思いが溢れている

自分の勝手な予想よりも早く、１週間前の日曜日の、丁度礼拝を捧げていた時間だったのですが、私の父親が天に召されました。ですので先週1週間は、葬儀のことなどの対応で、木曜日の祈り会もお休みとさせて頂きましたが、金曜日に、無事に父が所属していた大泉バプテスト教会で葬儀を行うことが出来ました。教会の皆さまお一人ひとりのお祈りを心から感謝しております。

父の地上の生涯は94才と２ヶ月でした。80代になってからは認知症の症状も現れ、また、晩年の数年間は様々な試練の時もありましたが、よく歩み抜いたな、生き抜いたな、と思っています。私自身、葬儀の前日、少し静かな時を持つことが出来たのですが、棺の中に納められた「よく頑張ったね、お疲れさまでした」と心の中で自然に言っておりました。そうすると向こうも（これは私の気分かも知れませんが）「よく最後までやってくれたな。ありがとう」と言う声が声が聞こえるような気がしたんです。

実は、私は今少し新しい発見をしているような気持になっているんです。それは、